

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	21-039	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Trends in the co-use of alcohol and tobacco among Japanese adolescents: periodical nationwide cross-sectional surveys 1996-2017 青年期の日本人における飲酒と喫煙併用の傾向：1996年～2017年の定期的な全国横断研究		
執筆者		
Fujii M, Kuwabara Y, Kinjo A, Imamoto A, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Kanda H, Osaki Y.		
掲載誌		
BMJ Open.2021 Aug 4;11(8):e045063. doi:10.1136/bmjopen-2020-045063.		
キーワード		PMID
飲酒、喫煙、日本人、青年期、変化		34348945
要 旨		
<p>目的： 本研究の目的は青年期の日本人における喫煙行動にともなう飲酒と、飲酒行動にともなう喫煙の割合の傾向を評価することである。</p> <p>方法： 1996年～2017年に実施された日本の学校ベースの全国調査を後方視的に検討した。本調査の対象は、全国の中学校、高校より無作為に選出し、日本の代表集団とみなした。毎年、103～179の学校の11,584～64,152名の生徒を対象に、喫煙と飲酒行動に関する匿名の自記式アンケートを行った。</p> <p>結果： 青年期の男女の飲酒及び喫煙率は調査毎に低下した (p for trend<0.01)。非喫煙グループの飲酒率は1996年29.0%、2017年4.0%、喫煙グループでは1996年73.3%、2017年57.4%であり、減少率は非喫煙グループ0.86、喫煙グループ0.22であった。非飲酒グループの喫煙率は1996年6.7%、2017年0.7%、飲酒グループでは1996年32.5%、2017年18.9%であった。減少率は非飲酒グループ0.90、飲酒グループ0.42であった。各グループ間では減少の程度に違いが認められた。高校のみを対象としたサブ解析では、さらに高等教育を受けることを希望する度合いによって3群に分けた。結果、より高等の教育を希望する群では飲酒と喫煙率が低く、調査期間中のそれぞれの低下率も大きかった。</p> <p>結論： 青年期日本人の飲酒と喫煙率は減少してきている。しかし、特定の集団ではこれらの改善は乏しく、健康リスク行動に格差が認められた。我々はハイリスクな集団にフォーカスを当て、適切な評価及び介入を行うことが必要である。</p>		